

# 冬の樹木を見てみようー第2弾 「夏から冬支度してたんです」



7月



7月



9月



11月

写真1 トチノキの冬芽が育つ様子  
矢印が冬芽を示します。(撮影地:北海道支所)

林業研究部門 森林植生研究領域

植生管理研究室長 倉本 恵生

冬の間、落葉樹は葉を落として枝の成長をとめて眠りにつきます。次の春に葉や枝をすぐ伸ばせるよう、もともになる物を小さくしたんで用意し、寒さや乾燥からまもるのが冬芽です。今の季節になると目立つ冬芽、それは夏から作られます。

葉が青々としげるトチノキの枝先を7月にみてみましょう(写真1)。まだ緑色ですが小さな芽ができています。9月ともなると冬と同じかたち・大きさになり、外側のおおい(芽鱗<sup>がりん</sup>)も茶色くなっています(写真1)。

他の樹木でも、夏の終わりを過ぎれば冬芽がすっかりできあがっていますが(写真2)、なかには見あたらない樹木もあります。ヤマモミジもそんな樹木のひとつですが、ちゃんと冬芽を準備し

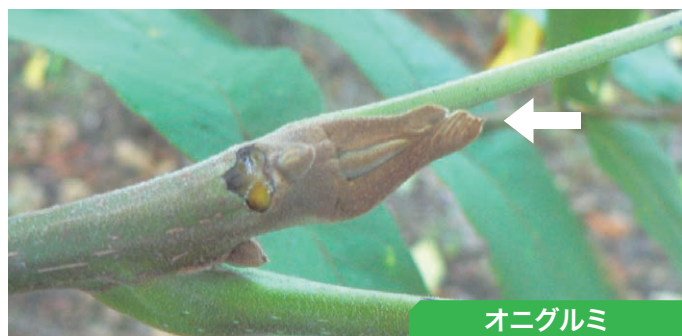


写真2 秋のはじめの樹木の冬芽  
(矢印が冬芽、撮影地:北海道支所)



写真3 ヤマモミジの9月頃の枝先  
黄色円で囲われたところが枝の先端 (撮影地:北海道支所)  
A. 自然のまま、B. 片方の葉柄を手で取る、C. もう一方の葉柄も取ったところ

ています。いったいどこにあるのかというと、葉っぱの軸(葉柄)の根元にすっぽり隠れています(写真3)。向い合わせに出ている2枚の葉の葉柄を外していくと、シカのひづめのように2つの芽が並んで登場します。

こうした樹木の冬支度を考えながら、冬芽を見てみると面白いですよ。